

松本広域消防局 警防課

当院では『24 時間 365 日 脳卒中救急体制』で、患者さんの診療を行っており、松本広域消防局より多くの救急搬送を受け入れています。今回は松本広域消防局警防課にお伺いし、越口さんにお話を伺ってきました。



【松本広域消防局】

松本広域消防局の出動状況について教えてください。

出動範囲は、3 市 5 村の範囲を 14 の消防署救急隊で連携し合いながら対応しています。

出動件数は、令和元年は、松本広域消防局全体で 18,504 件です。

事故種別では、救急隊の出動件数の 1/3 (12,296 件／18,504 件：約 66%) を急病が占めている状況で、麻痺や呂律が回らないなど、脳疾患を疑う急病者は、一之瀬脳神経外科病院へ搬送しています。(令和元年中 498 件)

救急隊の皆さんが現場で気をつけていることはありますか。

脳梗塞を疑うような傷病者の場合には、発症時刻の特定に重点におき、t-PA 血栓溶解剤の投与可能時刻の『発症後 4.5 時間』を考えながら、脳卒中救命を専門とする病院への搬送を考慮しています。一之瀬脳神経外科病院は、迅速に対応していただけるので、ありがたい存在です。

各消防署での講習会・勉強会などについて教えてください。

コロナウイルス感染症の影響で、今年に入ってから、大きな会場での講習会が行えていないのが現状です。しかし、熟練隊員から後輩への個別指導や、密にならない方法での勉強会を重ねて、日々の救急対応をより確実にするために、学習を怠らないようにしています。一之瀬脳神経外科病院の地域連携課

からは、救急搬送された患者さんの事後情報が提供されるため、担当した隊員へのフィードバックができ、学習にとっても役に立ち、感謝しています。

コロナ禍における、救急隊の対応についてお聞かせください。

国、県などからの情報や、救急指導医の指導の下、感染対策を行っています。発熱が確認される方や、感染地域への渡航歴が確認された傷病者に対しては、各病院へ搬送の際には、特に注意深く対応をしています。可能な限りマスクを着用していただき、救急車内の換気を徹底するなどです。

また、国内でコロナウイルスが確認されてからは、エアロゾルが発生する手技を行う際には、手袋、N95 マスク、ゴーグル、防護衣などを着用して、傷病者がコロナ陽性であっても、隊員の安全を確保するように務めています。



蔓延期のレベル 3 以上になった場合では、各現場において使い捨ての防護衣を使用して、その都度交換するようにしています。また、隊員が消防署へ帰署した際にも、更衣を行い、消防署内へウイルスが持ち込まれる事のないように徹底しています。

～取材を終えて～ 常日頃から、現場での的確な状況判断で対応を迫られるお仕事ですが、コロナ禍においては、更なる配慮が求められ、緊張が強いられていると感じました。そのような状況の中、自らのウイルス対策も徹底し、社会的使命の維持を図る救急隊の皆さんに、敬意を抱きました。当院でも、救急隊員さんにより搬送された患者さんがスムーズに適切な治療に入れる体制を引き続き整え、患者さんを受け入れていきたいと思っています。